

能Youth 農Yuzawa ～青少年による湯沢の耕し～

秋田県立湯沢高等学校 代表 斎藤光亮

湯沢高校×湯沢翔北高校×湯沢翔北高校雄勝校
湯沢東小学校×湯沢西小学校

1, 目的

湯沢雄勝地域の高校生を対象に、地域の課題に対して自ら考え、創造力を養い、積極的に挑戦出来る人材を育成します。具体的に取り扱うテーマとして、この地域の基幹産業である農業が抱えている「2050年問題」に着目し、有機農業が抱えている課題の解決方法を高校生が主体となって考えます。

具体的な方法として①有機農産物の販売方法やPR方法などを検討する ②有機農産物を活用した魅力的な特産品を考え作り上げるという2つのパターンを想定し、高校生の意見も尊重しながら農業に対する認知度、知名度の向上、「担い手不足」「魅力発信不足」という農業が抱えている慢性的な課題の解決を目的とします。



2, 取り組み内容

4月：各高校代表者会議

地域課題の共有と解決について学校の垣根を越えた取り組みを行うため、湯沢雄勝地域3校の代表者による会議を実施。高校生が主体となって実際に有機農業に取り組み、地元の小学生にも参加してもらい「食の大切さ」「有機農業の大切さ」を伝える事業を計画。

5月：「宝を植えよう～明日への種まき～」

湯沢雄勝地域の小学生・高校生200人で有機農業に挑戦！高校生が選定した農作物3,000（サツマイモ・カボチャ・ほうれん草・枝豆）を定植。各学校をシャッフルして10班を編成。ビニールマルチを鋤で張るところから実施。各班高校生が主体に協力しながら作業を行う。

6月～8月：除草作業

有機農業で一番の難敵・・・雑草との格闘！畑からは悲鳴が！！

10月：「宝を掘り当てろ～IMO-1グランプリ～」

5月事業同様、各学校をシャッフルして15班を編成。高校生が考えた5つの競技を実施。

「一番大きい」「一番小さい」「変な形」「委員長の足のサイズぴらたり」「制限時間内収量」

総合得点1位のグループが初代IMO-1グランプリ王者として表彰！！

3, まとめ

1年間の活動を通じて「農業」の大変さを実感し、さらに「有機農業」の難しさを痛感することができた。その中で、「食の大切さ」を身にしみて感じる事ができた。また、化学肥料や農薬除草剤を使用しなくても立派で美味しい農産物を生産できることも学び、安心安全な農作物の必要性を農業生産者へ改めて提言したい。各事業を学校の垣根を越えて行うことで、新たな気づき、交流を得るきっかけともなった。

今後、収穫した農産物で地域の企業と連携し「商品化」を実施。11月に集大成とも言える成果発表会も開催。

農業の根本を学ぶ機会となった1年間。やはり農業がなくてはならない産業であることを、我々青少年が地域の子供たち、そして大人へ伝え、その基幹産業を受け継ぐ若手が増えるよう発信していきたい。